

山口県教育

Education of the Yamaguchi prefecture

明日を拓く — 成果を検証する —

1

令和3年 No.1319



令和2年度 第73回山口県学校美術展 推奨作品

「国宝へと向かう階段」

下関市立一の宮小学校 6年(受賞時) 梅本 美葉

◎第20回やまぐち教育の日 下関大会 ◎第48回教育県民大会

紙上報告概要

下関大会実行委員会

■第33回「金子みすゞ賞」童謡詩入賞作品

下松市立下松小学校

1年 井上 那乃

山口市立白石小学校

校長 伊藤 豊

■第12回「わたしの志」作文入賞作品

萩市立椿東小学校

5年 岡本 唯花

山口県教育庁高校教育課

指導主事 原 文映

■地域活性化活動助成事業

長門市立油谷小学校運営協議会 会長 森田 和康

■現職研修助成事業(学校)

山口県立萩総合支援学校

校長 服部 芳信

一般財団法人 山口県教育会

〒753-0072 山口市大手町2-18 TEL 083-922-0383 FAX 083-922-5768

URL <http://www.ykyoikuk.or.jp> E-mail ykyoikuk@ruby.ocn.ne.jp

明治36年4月第1号 毎月1日発行 発行人 会長:倉増誠彦/編集長:西岡 尚



あなたの
アクションは…

山口県教育会がすすめる
「元気やまぐち」三つのアクション

◎あいさつ 返事で 明るいやまぐち

◎笑顔でつなぐ 安心やまぐち

◎ゴミ 落書きのない

美しいやまぐち



第20回やまぐち教育の日・第48回教育県民大会 下関大会



アトラクション

「曲名」『平家踊り』
「演奏」本村小学校平家踊りを受け継ぐ子の会

「明日を拓く」～子どもの育ちを見つめる～

紙上報告概要

大会主題

「明日を拓く」

【講演概要】

はじめに

縁は人が結ぶもの 緑は神さまが結ぶもの

1 バイキンマンはなぜアンパンマンに勝てないのか

利己 VS 利他

もう一つのテーマは、利己 VS 利他。

2 アンパンマンを越えて
アニメのヒット作品に共通する生きる喜び

☆(成長する) 喜び

主人公が成長するアニメはヒットする。

☆(誰かを幸せにする) 喜び

主人公が仲間や家族を幸せにしようとがんばる
アニメはヒットする。

☆(困難を乗り越える) 喜び

主人公が困難を乗り越えようと奮闘するアニメ
はヒットする。

3 未見の我

※人は自分を幸せにすることは難しいけれど、誰かを
幸せにすることはできる。

↓夢には賞味期限がある。

↓困難を描きやすい旅が舞台になる。

おわりに
※人は自分を幸せにすることは難しいけれど、誰かを
幸せにすることはできる。

入賞者表彰及び朗読

10月30日（土）教育会館

「金子みすゞ賞」童謡詩



「わたしの志」作文



※入賞者氏名を3・4ページに掲載



下関市教育委員会
教育長 児玉典彦様



講記念講演
【演題】アンパンマンのように生きる

【発表テーマ】
学校を支えるPTA活動について
これからの更なる取り組み

【発表者】
下関市PTA連合会
会長 松永英治

実践発表

令和3年度
第20回やまぐち教育の日
第48回教育県民大会
下関大会（紙上報告）



(一財) 山口県教育委員会・下関大会実行委員会

第33回「金子みすゞ賞」童謡詩入賞作品

最優秀

山口県教育委員会教育長賞



わたしのまえば

下松市立下松小学校
1年 井上那乃

最優秀 山口県教育委員会教育長賞

「わたしのまえば」

井上那乃 下松市立下松小学校 1年

山口市立白石小学校
校長 伊藤豊

豊

優秀 山口県教育会長賞

小学生の部
「大根さんのきもち」

森本紗羽 光市立浅江小学校 5年

中学生の部
「なつかしい夏休み」

上原碧 下関市立山の田中学校 1年

高校生・一般の部
「笑つて」

沖聰子 山口市

学校賞

光市立浅江小学校（校長 和田明俊）

佳作

「サンドイッチとおむすび」

松本鼓動 下松市立下松小学校 2年

「スイカ」

蕗莉亞 柳井市立柳東小学校 3年

「8月のペダル」

藤田舜也 下関市立吉見小学校 4年

「セミ」

三石唯人 下関市立文洋中学校 1年

「鳥の唄」

河野彩花 山口市立大殿中学校 2年

「おさがり」

小野こむぎ 萩市立むづみ中学校 2年

「月明かり」

長島良太 山口県立周南総合支援学校 高等部 3年

「まめ」

感王寺美智子 福岡県朝倉市

「小さな宝石」

下花みどり 広島県安芸郡



令和3年10月30日㈯ 山口県教育会館

最優秀及び優秀作品は、(一財)山口県教育会のホームページに掲載しています。小学生317編、中学生150編、高校一般21編、合計488編の応募がありました。

ぐらぐらしているわたしのまえば
いつまでたつてもぬけないまえば
きょうもぬけそうでぬけないまえば
ぐらぐらぐらぐらぐーらぐら
ぬけたらなになるのかなあ
わたしはおとなになるのかなあ
はやくなりたい
おとななまえば
ぐらぐらぐらぐら
ぐらぐら

ぐらぐらしているわたしのまえば
いつまでたつてもぬけないまえば
きょうもぬけそうでぬけないまえば
ぐらぐらぐらぐらぐーらぐら

人と人との自然なふれあいまで躊躇させる新型コロナウイルスの流行には辟易します。しかし、私たちは、お互いの心の奥底まで自在に思いを通わせる術、言葉をもつています。第33回「金子みすゞ賞」には、各部門合計488編もの応募があり、審査員一同の心にたくさんの思いを届けてくれました。

本年度の最優秀賞は、小学校1年生の井上那乃さんの作品「わたしのまえば」です。乳歯から永久歯に生え変わろうとしている「ぐらぐらしているわたしのまえば」は、「きょうもぬけそうでぬけ」ません。そんな前歯は、「ぐらぐらぐらぐらぐーらぐら」と不安定です。しかし、「ぬけたらなになるのかなあ」「わたしはおとなになるのかなあと、不安定の先に明るい希望を抱いています。前歯の様子に比べて、とてもしつかりした文字で作詩されました。とりわけ平仮名の「ぬ」が力強く、期待感の強さが手書き文字からもあふれていました。

小学校の部の優秀賞は、5年生の森本紗羽さんの作品「大根さんのきもち」です。大根おろしの味は、おろし手の気持ちを汲み取った「大根さんが決めるんだ」と、作者のあたたかな眼差しが言葉に表れています。中学校の部の優秀賞は、1年生の上原碧さんの作品「なつかしい夏休み」です。コロナ禍で「どこにも行けない夏休み」を題材に取り上げ、当たり前に楽しかった夏休みのたくさんの記憶を映像豊かに表現しています。

高校生・一般の部の優秀賞には、沖聰子さんの「笑つて」が選ばれました。「笑つて」と何度も私に頼む母。私からも「笑つて」と願い、二人が笑顔になつたとき空も晴れます。わかりやすい言葉で、お母さんとの心のふれあいが表現されています。

こんなだからこそ、あなたの感性で言葉を紡ぎ、詩に表してみませんか。やしさしさや楽しさは大きくふくらみ、苦しみは和らいでいくかもしれません。

第12回「わたしの志」作文入賞作品

最優秀

山口県教育委員会教育長賞

「知性」と共に未来へ



萩市立椿東小学校 5年

岡本 唯花

「知性」——この言葉は私が七才のお誕生日にもらった、ある本の表紙のうらのかたすみに、力強く書かれていた言葉だ。本といつしょにこの言葉をおくつてくれたのは、私のあこがれの人、私の大好きな祖母だ。さらに、その言葉の下には、こんなメッセージもつづられていた。「これから的一年がまた楽しみです。」七才の私には、「知性」がもつ言葉の意味はまだはつきりとは分からなかつたけれど、私のことを大事に思う祖母が、私の未来への応援の気持ちをこめておくつてくれた言葉であることは、はつきりと分かつた。

私の祖母は、とてもやさしくて明るい。そこに居てくれると、周りをぱつと照らしてくれる太陽みたいな存在だ。でも、何と言つても、私があこがれる祖母の一面は、かつこよくてりんとしているところ。悩んでいる時には、私の成長にとつて一番よい方法を考え、アドバイスを

くれる。祖母がおくつてくれた「知性」という言葉を辞書で調べてみたことがある。そこには、「物事を考えたり、はんだんしたりする力」と書かれていて、私ははつとした。その言葉の意味と、祖母の姿がぴつたりと重なつたからだ。私も祖母みたいになりたい、その思いが大きくふくらんだ。

私は、大人になつたら、小学校の先生になりたいと思っている。今までには「なりたいな」と単じゅんに思つっていた気持ちが、今は「必ずなる」という、私の大きな志へと変わつた。いつも明るくてやさしい先生、一人ひとりの心や気持ちによりそえる、温かいながらもりんとした、かつて良さもある。そんな先生像を描いている。

小学生は素直でかわいいし明るくて元気。学校中にひびきわたるような、明るい声が周りを元気にする。大人になつた私は、きっと笑顔で子ども達と過ごしているのだろう。

今は人として、あこがれの祖母が私のお手本となつてゐるが、まずは私も人間力を身に付けるよう。力強さや忍耐力など自分に足りてないことはまだまだ学習できる。そして良いところは、これから経験などを生かしてより伸ばしていくよう頑張ろう。

この夏のオリンピック、画面を通して私は沢山の声援を送つた。メダルが取れた選手、メダルが取れなかつた選手も、このオリンピックに

向けて費やした時間やエネルギーは、どれほどだつただろう。今日までに、心が折れそうになつた選手もきつといるはずだ。今一番、自分の全てを出し切つたのに負けてしまつた。それで、結果にとらわれない前向きな考え方や、気持ちの切り替えが本当の意味ですごいと思つた。私の未来も、決して楽しいことばかりではないと思う。どんな状況でも、のりこえなくてはいけない。自分の考えをきちんと整理し、知性豊かな人になれるように、志を持つて日々歩んでいきたい。



令和3年10月30日(土) 山口県教育会館

最優秀 山口県教育委員会教育長賞

「知性」と共に未来へ 岡本唯花

萩市立椿東小学校 5年

優秀 山口県教育会長賞

山口県教育庁高校教育課 指導主事 原

文 映

小学生の部
「人と成りにし道」

藏 貴聰太

萩市立明倫小学校 6年

中学生の部
「奇跡」の瞬間を共に

小野 こむぎ

萩市立むつみ中学校 2年

高校生の部
「私が目指す夢」

森下凜桜

萩市立明倫高等学校 2年

優秀 松風会理事長賞

「志を達成するために」 中村実桜

山口県立熊毛南高等学校 2年

佳作

「私の特技と経験を生かして」 栗林沙菜
「ぼくの夢 サッカー選手」 金子侑希

萩市立末武中学校 2年

「あこがれの薬剤師になるために」 黒石真央
「自分らしく人と関わるために」 末武紗凪

萩市立仙崎小学校 4年

「わたしの志（人を助ける人になる）」 上村兼士

萩市立明倫小学校 5年

「人は変われる」

萩市立明倫小学校 6年

「未来の子供が笑顔になるために」 森重澤

萩市立明倫小学校 6年

「わたしの志」 岡崎晴佳

萩市立明倫小学校 5年

「夢に向かって」 河村歩

萩市立明倫小学校 3年

最優秀及び優秀作品は、(一財)山口県教育会のホームページに掲載しています。
小学生76編、中学生379編、高校生12編 合計467編の応募がありました。

「わたしの志」作文も第12回を数えます。今回も多くの応募があり、その一つひとつの作品から、児童・生徒の皆さんのが熱い志を感じ取ることができました。

最優秀賞の『知性』と共に未来へ』は、自分の夢に向かつて歩んでいくことをする確固とした志が、誕生日に本と一緒に『知性』という言葉を贈ってくれた祖母への感謝の思いとともに、力強い言葉で書かれています。憧れの存在である祖母に近づこうとする、純粹でみずみずしい心が伝わってきました。

小学生の部優秀賞『人と成りにし道』は、敬意と感謝を込めて人に接していくことの大切さや、礼儀正しい大人になることへの思いが、素直な言葉で表現されています。吉田松陰の言葉をふまえて自身を見つめ、一人前の大になるための生き方を見出そうとする姿は、大変頼もしく感じました。

中学生の部優秀賞『奇跡』の瞬間を共に』は、生命の誕生に対する大きな感動や、その瞬間に自分も関わっていきたいという情熱が、深い考察や自己分析とともに書かれています。目標に向かつて自分の長所を活かしていきたいという志は、読む人を前向きな気持ちにさせてくれるように思いました。

高校生の部優秀賞『私が目指す夢』は、理学療法士をめざす理由が、さまざまな場面で抱いた率直な思いとともに、具体的にわかりやすく書かれています。また、家族に対する愛情や困っている人のために自分を役立てたいという決意も表現されており、高校生としての精神的なたくましさを感じました。

松風会理事長賞『志を達成するために』は、「グリーフケア」という言葉の意味をふまえ、ペットだけでなく飼い主の心にも寄り添う獣医師をめざし、自身の限界を決めずにひたすら努力していくこうとする志が書かれています。人や動物に向けた温かい心を、これからも大切にしてほしいと思います。

いただきました児童・生徒の多くの作文からは、「人とつながり」の中で志を抱いている様子を読み取ることができました。今後も、子どもたちが人とのつながりの中で未来へと向かう志を育んでいくために、この作文がその一助となることを祈念しております。



地域活性化活動助成事業

住民の側から「学校空間をデザインする」(V)

「住民の単なる学校支援から、

学校との連携・協働への取組」



長門市立油谷小学校運営協議会
会長 森田 和康

1 はじめに

この実践は平成20年から10数年間にわたり、住民の側から「どんな学校にすれば、次代を担う児童生徒を育てることができるか」という息の長い取組です。「学校空間をデザインする(V)」は、この長い実践の第2期目で5年目を迎えています。平成20年当時は単に「住民が学校を支援するもの」でしたが、今では「地域の将来を担う人材を育成すると共に、自立した地域社会の基盤を構築する機会や場を持つような学校づくりへと変貌していると言えましょう。こうした地域と学校が協働しての取組は、子どもと住民が主役で、コーディネーターは住民との橋渡しの役割を担っています。100名に近い応援団員と、きめ細かく連絡を取り合ったための通信費等かなりの額になります。その意味から、山口県教育会地域活性化助成事業には長年お世話になっています。それだけに長門支部油谷地区会員は力を合わせて精力的に取り組んでいます。

2 住民の側から「学校空間をデザインする」

ことの始まりは平成27年、油谷小学校の改築竣工でした。長門市教委は、これまでの油谷地域住民の学校支援を背景に、地域に開かれた学校づくりの象徴として玄関から入つて一番いい場所に「地域交流室」を設



多彩な学校支援



「住民自らも学び、高まり合う体制づくり」を模索し始めました。すなわち、「学校は子どもたけだけでなく、住民も一緒に共に高まり合う共同体としての学校をどのようにデザインするか」いう模索です。こうして地域交流室での住民の学習塾「知つ徳なっ得塾」や「3年生になつて学ぶ外国語学習」など多彩な運営を始めました。

子どもたちにとっては「高齢者になつてもいつまでも学ぶ真摯な姿」を垣間見ることとなります。反対に住民は子どもたちからエネルギーをもらいWin-Winの関係がもたらされています。

住民は、こ
こを拠点に
これまでの
「学校支援」
に加えて

けました。
こを拠点に
これまでの
「学校支援」
に加えて

子どもと学ぼう&カレーライスとサロンの日

○学校の願い
「学校とともににある学校づくり→学校を核としたまちづくりの事業～学校は子どもと住民の学びの共同体～」

○地区社協の願い
「健康寿命を延ばし認知症を防ぐ(頭・体・社会参画)の事業」

○公民館の願い
「つなぐ・結ぶ・生かし生かし合う関係の構築(ネットワーク型公民館づくり)」の事業

それぞれの願いを共有し、共に響き合うトライアングル型まちづくり事業

ある「高齢化率54%」のまちの中で健康で幸せに暮らせたまちづくり」を、公民館が仲立ちとなつて結びつけたまちづくり事業です。（言うまでもなく公民館は、こうしたまちづくりの中心となつて活動しています。）長門支部油谷地区会員は、こうしたまちづくり事業で、住民をつなぎ、結び、活かし活かし合う関係をつくり出すのが目的です。）長門支部油谷地区会員は、こうしたまちづくりの中心となつて活動しています。

これは学校のねらいである「学校を舞台に地域との連携・協働づくり」と地区社会福祉協議会のねらいで、住民も一緒に賢くなりたい。そうして生まれたのが「共に響き合うトライアングル型まちづくり事業」です。同時に、代を担うたくましい子どもたちを育てたい。同時に、次に響き合うトライアングル型まちづくり事業

4 終わりに～地域学 校協働活動へのデザイン～

住民の単なる学校支援から、学校との連携・協働へと進化させる取組は「一朝一夕にでき

こういった成果を受けて本年度から、トライアングルまちづくり事業の内容を「異世代交流」として統合した実践に入っています。

(2) 学校を舞台に、異世代交流としての統合的取組

(1) 子どもと学ぼう&カレーライスとサロンの日

このトライアングルまちづくりの中核事業が「子どもと学ぼう&カレーライスとサロンの日」です。参加者は、子どもと一緒に学ぶ（授業参観を超えての授業参加）、そして公民館・男子料理サークルが作るカレーライスを食べながら談笑、さらに子どもたちと一緒にサロンを実施する事業です。

るものではなく漢方薬の効き目のように息の長い実践の蓄積が重要である」と、文科省国立教育政策研究所統括研究官の志々田まなみ氏は言つております。「よりよい学校教育を通して、よりよい地域を創る」という今、指導要領のキヤツチフレーズを念頭に、長門支部油谷地区の会員一同、遊びのような楽しさで住民と一緒に地域学校協働活動へのデザインを深化させていきたいと思つています。

模式図

令和3年度(2021年度)共に響き合うトライアングル型のまちづくり事業計画



～「縦割りや「支え手・受け手」の改善への意識醸成と実践化～
～子ども達が大人になつた健幸時代をどう生きるのかを想定し 地域住民として責任を持って今を生き事を示す～

子どもたちの健やかな学びの保障に向けた

学習活動の継続と持続可能な

特色ある教育活動の充実



はじめに

北に日本海を望み、城跡や武家屋敷の町並みが残る「萩城下町」や、日本の近代化を進めた「萩反射炉」「恵美須ケ鼻造船所跡」「大板山たら製鉄遺跡」、多くの志士を輩出した「松下村塾」などの世界遺産と由緒ある歴史を感じる萩の地に開校して以来、本校は今年度30周年を迎えた。この間、身近な地域で専門的な教育を受けることができるよう、「長門市立深川小学校」内に「萩総合支援学校長門分教室」が開設されるなど、長北地域の特別支援教育のセンター的役割を担ってきた。

こうした中、人口減少や技術革新・グローバル化などの激変する社会状況の変化、Society5.0（超スマート社会）時代の到来、DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進などへの対応とともに、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴う学習活動継続への対応など、学校が抱える喫緊の課題は多岐に渡つており、学校・家庭・地域が一体となり、社会総がかりによる特色ある学校づくりが一層求められている。

2 地域等との連携・協働による教育活動の工夫

このため、新型コロナウイルス感染症への対応を「チャレンス」と捉え、ICT機器等を活用した指導支援の充実や、地域や企業等との連携・協働による持続可能な特色ある教育活動を充実していくこととした。そこで、本校の取組をいくつか紹介する。



1 ICT機器等を活用した個別最適な学びと協働的な学び等の学習環境の整備

本校では、ICT機器等を活用し、一人ひとりの障害特性に応じたきめ細やかな個別最適な学びに向けた実践や、本校と長門分教室において、リモートを活用した遠隔授業等を通じて授業における集団の確保と協働的な学びに向けた実践に取り組んでいる。

おわりに

社会の変化は加速度を増し、子どもたちを取り巻く環境が、複雑化・多様化するなど、予測困難な時代を迎えており、学校教育には、子どもたちが学び続ける力や困難を乗り越えるたくましさ、多様な人々と協働しながら、自信をもつて社会に参加する力などの育成が求められている。

このため、子どもたちの安全・安心対策を徹底しながら、心が揺れ動くような学習活動や教育活動を継続させていただいた。引き続き、地域等との連携・協働による学習活動の一層の充実に取り組み、地域とともに持続可能な特色ある学校づくりに努めて参りたい。

- ① コンビニエンスストアの協力により、校内の一室を移動販売ブースとして商品を陳列し、校内での買い物学習を実施。店員の方とやりとりを通じて、コミュニケーション能力の育成に取り組んでいる。
- ② 陶芸作家や地域の方をゲストティーチャーとして招聘して、陶芸教室を実施。陶器の皿や置物の制作を通じて、伝統文化のすばらしさを体感している。
- ③ 芸術家の方をゲストティーチャーとして招聘して、音楽教室を実施。優れた演奏の鑑賞や、本物の音楽に触ることにより文化芸術活動の素晴らしさを感じ、芸術への関心を高めている。



山口県立萩総合支援学校
校長 服 部 芳 信